

国立天文台ニュース

National Astronomical Observatory of Japan

2015年7月1日 No.264

20周年を迎える 国立天文台三鷹 定例観望会



- 15年目を迎えた岡山天体物理観測所の特別観望会
- 特集 2015夏 国立天文台の特別公開！イベント情報
岡山天体物理観測所・岡山天文博物館 特別公開／水沢VLBI観測所 水沢地区 特別公開
「いわて銀河フェスタ」／水沢VLBI観測所 VERA石垣島観測局・石垣島天文台 特別公開
「南の島の星まつり」／水沢VLBI観測所 VERA入来観測局(鹿児島) 特別公開「八重山高
原星物語」／野辺山宇宙電波観測所 2015年特別公開
- 絵本のほんだな12冊目「モグラくんがみたおひさま」

7
2015

- 表紙
- 国立天文台カレンダー

03

研究教育トピックス 20周年を迎える国立天文台三鷹 定例観望会

—— 石川直美 (天文情報センター)

- 15年目を迎えた岡山天体物理観測所の特別観望会
—— 戸田博之 (岡山天体物理観測所)

07

特集 2015夏 国立天文台の特別公開！ イベント情報

★ 8月29日開催予定

岡山天体物理観測所・岡山天文博物館 特別公開

—— 戸田博之 (岡山天体物理観測所)

★ 8月22日開催予定

水沢VLBI観測所 水沢地区 特別公開「いわて銀河フェスタ」

—— 舟山弘志 (水沢VLBI観測所)

★ 8月15日～23日開催予定

水沢VLBI観測所

VERA石垣島観測局・石垣島天文台 特別公開「南の島の星まつり」

—— 宮地竹史 (水沢VLBI観測所/石垣島天文台)

★ 8月8日開催予定

水沢VLBI観測所 VERA 入来観測局 (鹿児島) 特別公開「八重山高原星物語」

—— 中川亜紀治 (鹿児島大学)

★ 8月22日開催予定

野辺山宇宙電波観測所 2015年特別公開

—— 衣笠健三 (野辺山宇宙電波観測所)

11

連載 絵本のほんだな12冊目

『モグラくんがみたおひさま』 —— 井上直子 (ひので科学プロジェクト)

14

●追悼 赤羽賢治先生を偲んで —— 海部宣男 (国立天文台名誉教授)

15

- 人事異動
- 編集後記
- 次号予告

16

シリーズ「新すばる写真館」16

ステファンの5つ子 —— 八木雅文 (光赤外研究部・ハワイ観測所)



表紙画像

三鷹の定例観望会のようす。50センチ望遠鏡と小型望遠鏡を使って、観望プログラムにも工夫をこらします。

(撮影：長山省吾)

背景星図 (千葉市立郷土博物館)

渦巻銀河M81画像 (すばる望遠鏡)



三鷹のユリ星雲。

国立天文台カレンダー

2015年6月

- 1日 (月) 天文データ専門委員会
- 11日 (木) 幹事会議
- 12日 (金) 4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 20日 (土) 4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 24日 (水) 幹事会議
- 27日 (土) 4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 30日 (火) 幹事会議

2015年7月

- 3日 (金) 先端技術専門委員会
- 10日 (金) 幹事会議、4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 13日 (月) 運営会議
- 14日 (火) 天文情報専門委員会
- 18日 (土) 4次元デジタルシアター公開 (三鷹)
- 21日 (火) ファミリーデー (三鷹)
- 23日 (木) 安全衛生委員会
- 24日 (金) 幹事会議
- 25日 (土) 4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 31日 (金) 教授会議

2015年8月

- 7日 (金) 4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 8日 (土) 水沢VLBI観測所・入来観測局特別公開
- 15日 (土) 水沢VLBI観測所・石垣島天文台特別公開「南の島の星まつり」(~23日)、4次元デジタルシアター公開 (三鷹)
- 16日 (日) 水沢VLBI観測所・石垣島観測局特別公開
- 22日 (土) 水沢VLBI観測所・水沢地区特別公開「いわて銀河フェスタ」、野辺山宇宙電波観測所特別公開、4次元デジタルシアター公開/観望会 (三鷹)
- 27日 (木) 安全衛生委員会
- 29日 (土) 岡山天体物理観測所特別公開

20周年を迎える 国立天文台三鷹 定例観望会



石川直美
(天文情報センター)

はじめに

1996年4月12日、百武慧星が世間を騒がせていた頃、「国立天文台でこそ、星を見せなくては」と、台内数名の大学院生により企画され、初回参加者数74人から始まった国立天文台の定例観望会が、2016年4月で20周年を迎えます。初年度は年間1000人に満たなかった参加者数も、2014年度は5000人以上と、国立天文台三鷹の中でも人気のあるイベントの一つとして定着してきました (図2)。

運営の主力は大学生、大学院生

定例観望会の運営の主力は、天文学を専攻する、または天文サークル等で活動経験があり、科学コミュニケーションに興味のある大学生(3年生以上)、大学院生です(以下、学生スタッフ)。観望会は参加者に星を楽しんでもらうだけではなく、学生スタッフが科学コミュニケーションの修行をする場でもあります。学生スタッフはそれをよく自覚して資料作りやポスター作り、当日の運営など、とても熱心に取り組んでいます。参加者からも「学生がとても熱心に説明してくれた」「親切だった」など、お褒めの言葉もよくいただきますが、それに満足することなく研修や練習会などを積極的に行い、技術向上に取り組んでいます。

ちなみに学生スタッフの募集は年明け頃から行い、採用後に先輩スタッフによる懇切丁寧な研修を経て、一人前のスタッフになります。興味のある大学生、大学院生は、ぜひご一報ください (図1)。

参加者数の推移と思い出話

★1996年度～1999年度

定例観望会は、月2回(第2土曜日の前日と

第4土曜日、雨天曇天中止)、参加自由のイベントとして始まりました。しかし、晴天時のみの開催であったため、開催日の天候に恵まれなかった1998年は9回しか開催できず、年



図1 学生スタッフは、いつの代もチームワーク抜群。七夕の頃には浴衣で観望会を開催するなどのちょっとした遊び心も。



図2 1996年度から2014年度の参加者数の推移。2003年にピークがあるのは、火星大接近による、いわゆる「火星パニック」のため。

間の参加者数も355人と、少し寂しい記録となっています。

★2000年度～2011年度

2000年度から、悪天候で星が見えない日でも観望会を中止にせず、天体の説明と望遠鏡の見学を行うことにしました。観望できないときは説明を長めに行い、展示、映像上映などを充実させるなど工夫したところ、参加者数は徐々に増加し、さらには「天気が悪い日は説明が長く聴ける」「ゆっくり質問できる」ということを好む常連も現れました。ただし、晴天時と悪天候時の参加者数の差はかなり顕著で、悪天候時の参加者8人という残念な記録も残っています。

強烈に記憶に残るのは2003年9月12日。「6万年ぶり」が強調された火星大接近直後の観望会の参加者は、金曜日にもかかわらず何と1215人！（名簿への記載人数。実際の来台者はおそらく2500人を超えた）。ロータリーは人！人！人！空には雲が多く、肝心の火星は見えたり隠れたり。学生スタッフは解説、観望にてんやわんや。職員は行列整理、お詫びに追われました。観望が終わったのは、火星の高度が低くなった午前1時30分過ぎ。この日は、天文情報センター内で「火星パニック」と呼ばれ、語り継がれる伝説の観望会となっています（図3）。

また、2009年の世界天文年以降、観望会への関心が高まったためか、参加者数がさらに増加し、晴天時には500人を超えたこともありました。このような時は、「いかに工夫して天体の説明をするか」「いかに来場者に楽しんでもらえるのか」ということよりも「いかに観望を早く回すか（終バスに間に合わせるか）」ということが気がかりで、きめ細かな対応がしづらい状況になっていました。

★2012年度～

上記のような状況を回避するため、2012年度から観望会を事前申込・定員制にしました。定員はこれまでの経験をふまえ、できるだけ多くの人に観望を楽しんでいただきたいと、300人に設定しました。時期によっては申込開始後にすぐに定員に達してしまい「なかなか申し込みできない」とお叱りをいただいてもありますが、申込方法を年々改良しています。また、最近では新規の参加者や、web（5ページ）での申込に抵抗感のない若い世代の参加者が増えています。常連の足が遠のいたことは残念ですが、これまでよりも広く、大勢の方に観望会を楽しんでいただけていると思います★01。



図3 忘れもしない、2003年9月12日の観望会。いわゆる「火星パニック」。これだけ人が溢れかえるロータリーは、後にも先にもこの時だけ。その次の9月27日の観望会も、1000人弱の参加がありました（撮影：飯島 裕）。



図4 研究内容を紹介した内容の濃いポスター、子ども向けの楽しいポスターやクイズなど、展示にも工夫を凝らしています。今後、さらに進化していくことでしょう。

参加者からの意見をフィードバック

定例観望会では毎回アンケートをとり、参加者からの意見や要望を観望会の運営に反映させています。以前は「待ち時間が長い」とお叱りをいただくことが多くありましたが、定員制にしてからは、待ち時間に関するクレームが減りつつあります。また、観望会には幅広い年齢層の方が参加しているため、配布資料の評価が年齢層によってばらつき、「子ども向けの資料がほしい」との要望をよくいただいていた。それを踏まえ、今年度からは子ども向けの配布資料も作成します（図4・5・6）。また、アンケートからの要望ではありませんが、簡易的な英語の資料を2013年度から作成しています。

★ newscope <解説>

★01

観望会で使う50センチ公開望遠鏡は1994年に建設され、以来、定例観望会や研究観測、広報用画像の撮影、学生の観測実習などに利用されています。定例観望会の観望天体は、
・月、惑星、二重星、明るい星雲など、東京の空でも楽しめる天体。
・観望会の開始から終了まで観望可能な高度である。
ことを基準に決定しています。また、申し込みが分散し、多くの方に観望の機会があるよう、同じ天体を2回以上観望天体として選んでいます。

おわりに

最近では、都内の施設や街角で多くの観望会が開催されるようになり、一般の方が気軽に星を楽しむシーンが増えてきました。しかし、そのような中でも定例観望会の参加者数は、ありがたいことに年々増加しています。多くの方に親しまれる定例観望会を20年にわたって続けることができたのは、歴代学生スタッフの努力と、国立天文台職員みなさまの協力があったからです。だからこそ、研究機関で開催している観望会として、これからも

- 参加者が、天文学や国立天文台に対してより深い興味や理解を得る機会とする。
- 次代の研究を担う学生たちが科学コミュニケーションに対する意識を高め、将来の活動に活かす。
- 国立天文台が発信する情報に耳を傾け、理解し、応援して下さる国立天文台ファンを増やす。

ことを目的として、観望会を続けることができれば幸いです。

晴天時、望遠鏡の前は「すごい!」「きれい!」など、おどろきと感動の言葉に溢れています。この感動が未来の天文学を支え、「楽しかった!」「ありがとう!」の言葉をいつまでも聞くことができますように。

2016年4月には20周年の記念行事(?)も企画しています。歴代スタッフのコメントなども含めて、報告記事をお届けする予定です。お楽しみに!

★国立天文台三鷹 定例観望会webページ
<https://prc.nao.ac.jp/stargazing/>



図5 観望前に、その日見る天体の解説を。解説や配付資料は、直前まで学生スタッフ同士でチェックを入れ、より完成度の高いものにしています。

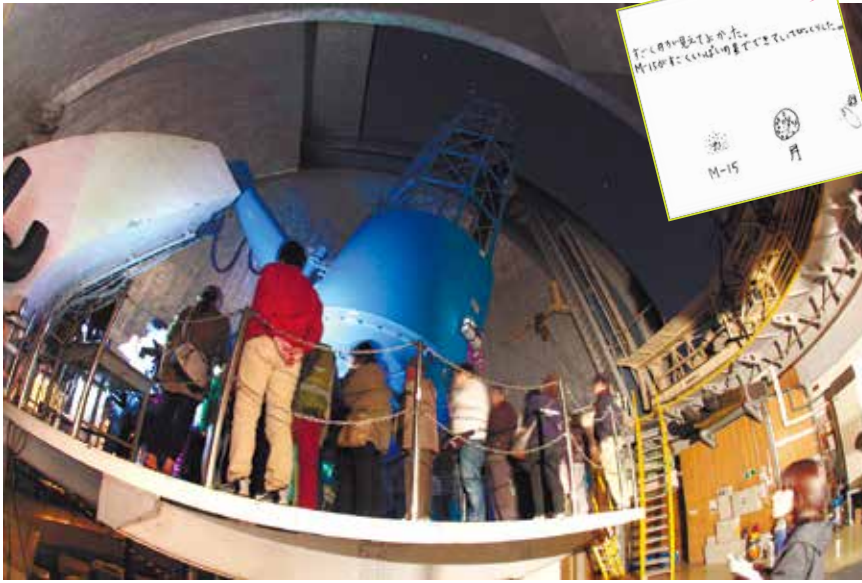


図6 50センチ望遠鏡で観望した後は、小型望遠鏡でも観望します。50センチ望遠鏡前には行列ができますが、星空解説を行うなど、待ち時間も有効に使っています。



15年目を迎えた岡山天体物理観測所の特別観望会

戸田博之 (岡山天体物理観測所)



参加者の中には初めて天体望遠鏡で星を見る人もいますので、観望対象は月・惑星が1等星などの見やすい天体を必ず一つは選んでいます。秋の特別観望会では「球状星団M15」が定番です。約5分角の狭い視野ですが、シーイングが良いと星のつぶつぶがぎざり詰まっている様子を見ることができます。通常はさまざまな観測装置が取り付けられて学術研究の最前線で運用される188cm反射望遠鏡ですが、このときは一般的な天体望遠鏡と同様に55mmの接眼レンズ（倍率600倍）がセットされ、口径188cmの巨大な観望用望遠鏡として活躍します。

岡山天体物理観測所では2000年より188cm反射望遠鏡を使った天体観望会を「特別観望会」として開催しています。2003年からは年間2回、春と秋に開催しています。所内の施設や交通の事情で定員を100名としています。毎回多くの応募者数のため抽選で参加者を決めています。

特別観望会の流れを簡単に説明します。参加者は3班編成とし3台のバスに分乗。各班は45分の時間差をつけて山麓の集合場所から出発します。各班は協力をいただいている岡山天文博物館で館内見学、プラネタリウムを使用しての観望天体の説明を受けた後、188cm反射望遠鏡による天体観望を行なっていただきます。188cm反射望遠鏡は約10mの長さの鏡筒がイギリス式赤道儀の架台に搭載されています。この構造は観望には適していません。しかし、観測室の床が東西独立に昇降する仕組みになっており、一方の床だけで約40名を乗せたまま上下させることができます。これでカセグレン焦点に装着した接眼部にアクセスしやすくなります。188cm反射望遠鏡での天体観望後はドーム外で岡山天文博物館職員による星空案内も行っています。運悪く曇天・雨天のため天体観望ができない場合は、188cm反射望遠鏡や施設紹介、4次元デジタル宇宙シアターの上映、反射

鏡の見学など実施しています。

このような流れで行っている特別観望会ですが、188cm反射望遠鏡での天体観望以外に大きな特徴があります。それは、参加者と職員との交流です。送迎バスには2名の職員が乗車し、集合場所と観測所の往復約1時間のあいだ参加者に同行します。天体観望の順番待ちの際は、複数の職員が対応しています。この時、職員は天文学の話から観測所での仕事や生活など、参加者から投げかけられる疑問・質問に気軽に答えています。そして話が弾み参加者・職員お互いに会話を楽しんでいる様子が見られます。このような交流が参加者の特別観望会への高評価につながっていることは、毎回行っている簡単なアンケートからも推測できます。アンケートでは特別観望会の印象を尋ねていますが、天気が悪く天体観望ができなくても90%以上の参加者より「よかった」と回答をいただいています。

特別観望会は地域の皆さんとの接点を持つために、また岡山天体物理観測所の活動を地域に還元していくために年1回の施設特別公開と共に始めたものです。機会と人数は限定されます



参加者のみなさんは、岡山天文博物館のプラネタリウムで、その日の観望対象を中心に事前のレクチャーを受けます。

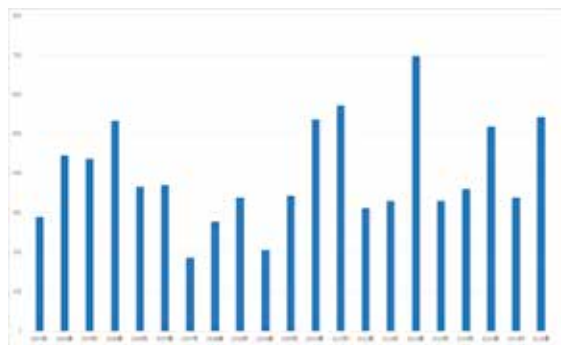


あいにくの悪天となった場合は、ポータブル式の4D2Uが大活躍。せっかく来ていただいたみなさんに少しでも宇宙を感じてもらえたらうれしいです。



曇天・雨天時には、188cmの巨大な反射鏡も見学していただきます。

が、188cm反射望遠鏡での天体観望会と、その場での参加者と職員との交流はその目的にかなったものと考えています。今後も地域の方々との交流を重ねつつ、少しでも多くの人々に星や宇宙・天文学に触れる機会を作り、地域文化の発展に貢献するとともに、天文学の普及を図っていく努力を続けていきたと考えています。



特別観望会の応募者数の推移 (2004年秋以降)。

岡山天体物理観測所 2015年特別公開

岡山観測所が発見した太陽系外惑星に名まえが付きます!

開催日時 8月29日(土) 9:30~16:30

●2014年特別公開のようす

2014年は8月30日に岡山天文博物館(浅口市)と共催で開催し、641人のみなさんにご来場いただきました。

昨年の特別公開の目玉は、渡部潤一氏(国立天文台副台長)による「彗星の予測はなぜ外れるのか?—アインシュタイン彗星を例に一」と長田哲也氏(京都大学大学院教授)による「京都大学3.8m望遠鏡、建設はじまる」の特別講演2本立てでした。

毎年大好評の188cm反射望遠鏡見学は、午前と午後それぞれ120人の定員で行いました。整理券を求めて早くから並ぶ方がいる人気イベントです。また、岡山天文博物館では、プラネタリウム放映、天文工作「10分でできる分光器を作ろう!」、天体・星座ビンゴゲームなど、子どもたち大人気のイベントで盛り上がっていました。

昨年の8月は天候不順でしたが、特別公開当日は幸い好天に恵まれ、ご来場くださった皆さんに楽しい一日を過ごしていただけたと思います。



188cm反射望遠鏡の下で行った特別講演。ドーム内は満員状態です。

●今年の見どころ・聴きどころ

今年の8月上旬に行われる国際天文学連合の総会で20個の太陽系外惑星に名まえ(愛称)がつきませんが、そのうちの6個は岡山天体物理観測所が発見された「太陽系外惑星」です。それを記念して今年には「太陽系外惑星」についての2つの記念講演をおこないます。講演をしていない時間には国内最大級の188cm反射望遠鏡を間近に見学できます。

また、隣接する岡山天文博物館では「夏のこども祭り」が同日開催されますので、ぜひご家族でご参加ください。

★太陽系外惑星命名記念講演会

会場：岡山天体物理観測所188cm反射望遠鏡ドーム

参加費：無料

- 記念講演1：11:00~12:30「岡山で見つけた太陽系外惑星」／講師：佐藤文衛(東京工業大学准教授)
- 記念講演2：14:00~15:30「188cm望遠鏡の新観測装置マスカットで探る太陽系外惑星」／講師：成田憲保(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教)



太陽系外惑星系の想像図。188cm反射望遠鏡によって2003年に国内で初めて太陽系外惑星が発見されました。系外惑星探索は現在も精力的に行われて、これまでに28個の惑星が発見されています。そのうち6個の惑星系が国際天文学連合が進める系外惑星命名キャンペーンの命名対象(最初の20惑星系)に選ばれ、一般公募で名まえ(愛称)が付けられることになりました。

★岡山天文博物館「夏のこども祭り」

場所：岡山天文博物館(岡山天体物理観測所に隣接)

参加費：博物館は入館料が必要です。

詳しくは岡山天文博物館ホームページへ!

<http://ww1.city.asakuchi.okayama.jp/museum/index.html>

●特別公開の歩みと地域との連携

★特別公開の歩み

岡山天体物理観測所の特別公開は1985年から1992年の期間は8月または9月の1日か2日間開催していましたが、その後しばらく中断していました。2000年11月に再開され、2001年には8月上旬に開催、2002年からは毎年8月下旬の土曜日に開催しています。最近では、夏休み終盤のイベントとして地域に定着してきたと感じています。2008年より始めた「特別講演」は会場を188cm反射望遠鏡ドーム内とした、広いドームをもつ岡山天体物理観測所ならではのイベントとなっています。

なお、岡山天体物理観測所では、特別公開とは別に188cm反射望遠鏡を使って天体観望する特別観望会を開催しています。その詳細は6ページをご覧ください。

★地域との連携

特別公開・特別観望会は岡山天文博物館との共催事業として開催しています。天文博物館を所管する浅口市教育委員会からの様々なご協力にも大変感謝しています。また、天文博物館とは日ごろから、見学者への対応ではご協力をいただいています。天文博物館、浅口市教育委員会あるいは浅口市が行なう事業に対しては、岡山天体物理観測所から共催、協力、講師派遣などを行なっています。今後も地元と緊密な連携を図って行きたいと思っています。



●2015年開催データ

開催日時：8月29日(土) 9:30~16:30

記念講演会：「岡山で見つけた太陽系外惑星」佐藤文衛(東京工業大学大学院 准教授)／「188cm望遠鏡の新観測装置マスカットで探る太陽系外惑星」成田憲保(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教)

★詳しくは
<http://www.oao.nao.ac.jp/>

●過去の開催データ

○2014	開催日時：2014年8月30日(土) 9:30~16:30 入場者数：641人 特別講演会：「彗星の予測はなぜ外れるのか?—アインシュタイン彗星を例に一」渡部潤一／「京都大学3.8m望遠鏡、建設はじまる」長田哲也 ※反射鏡見学あり
○2013	開催日：2013年8月31日(土) 入場者数：515人 特別講演会：「宇宙はどうなっているか」(林正彦) ※反射鏡見学あり
○2012	開催日：2012年8月25日(土) 入場者数：607人 特別講演会：「第二の地球はあるか—太陽系外惑星探し—」(佐藤文衛) ※反射鏡見学あり
○2011	開催日：2011年8月27日(土) 入場者数：798人 特別講演会：「天文学最前線」(観山正見) ※反射鏡見学あり



同日開催

水沢VLBI観測所 水沢キャンパス 2015年特別公開 (いわて銀河フェスタ2015)

テーマ 奥州市の名物夏祭り！「いわて銀河フェスタ2015」

開催日時 **8月22日(土) 10:00~16:30**
 (「いわて銀河フェスタ2015」は21:00まで)

●2014年特別公開のようす

2014年8月30日(土)に開催された「いわて銀河フェスタ2014」は、午後からの雨降りもあり、昼の部の受付集計は847名と例年に比べて少ない来場者数となりましたが、夜までの来場を合わせると1000名を超えたものと思われまます。昨年は「はやぶさ2 再び小惑星へ太陽系形成の謎に挑む！」と題し、RISE月惑星探査検討室が中心となって「はやぶさ2」の紹介をメインテーマとしました。関連する特別展として隕石展示も行いました。さらに特別講演会は、北海道大学准教授の橘省吾(たちばな しょうご)氏に太陽系の資源物質科学の観点から「はやぶさ2」についてお話いただきました。もちろん、例年通りさまざまなブース展示も行いました。また昨年はイベントとして、宇宙飛行士の若田光一さんをお迎えした鼎談形式での特別講演会を開催し、来場者が1000人を超えて、たいへん盛り上がりまました。



オープニングセレモニーの様子。水沢南小学校第56代鼓笛隊の熱演で特別公開がスタートします。



スパコンツアーのようす。「アテルイ」と対面できます。



RISEの研究紹介。

●今年の見どころ・聴きどころ

奥州市の夏祭りとして行われる「いわて銀河フェスタ2015」。国立天文台と奥州市、NPO法人イーハトーブ宇宙実践センター(奥州宇宙遊学館)を中心に実行委員会が組織され、今年は8月22日(土)に開催します。開催時間は10時から18時までが太陽の部、18時以降は星の部として行われます。

今年度の公開では、特別講演会の講師として千葉大学より石山智明氏をお招きし、「アテルイ」などのスーパーコンピュータを使った、宇宙の構造進化に関する研究についてお話いただきます。また、サイエンスカフェ拡大版では、各プロジェクト代表者の3名が、研究内容についてだけでなく、研究者の手柄や研究への思いなども語る予定です。その他、今年度水沢キャンパスへ移送されたVERAの関連施設や、AOC(アレイオペレーションセンター)を木村榮記念館と共に、特別内覧ツアーにてご紹介いたします。いわて銀河フェスタ2015へ、ぜひお越しください。

○特別講演会

- ・特別講演会(千葉大学准教授 石山智明) 14:00~15:00
- ・サイエンスカフェ拡大版(講師: 本間希樹、竝木則行、小久保英一郎)

○昼の部

マーチングバンド演奏/鬼剣舞の舞/展示実験コーナー(「太陽光を集めてお湯が沸くぞ!」/「夏の星座シートを作ろう」(夜の星空観望会で活用)/宇宙遊学館シアター特別上映「宇宙のはじまり」他/「太陽の色はなに色?」/「この地の江戸後期の天文学がすごい!」小圃仲達・高野長英との学びの中で星を知ろう)※天文関係のほかにも多くのコーナーがあります。

★水沢VLBI観測所(VERAプロジェクト)

アンテナツアー/観測棟研究紹介/VERA研究紹介、ブラックホール紹介・模型展示、バックエンド室の見学他/アンテナ駆動体験/ブリクラ

★RISE月惑星探査検討室

研究紹介/Dagik Planet ダジック・プラネット(デジタル惑星儀)/太陽系ウォーキング/ペットボトルロケット体験

★天文シミュレーションプロジェクト(CfCA)

スパコン「アテルイ」ツアー/CfCA研究紹介

★その他

クイズラリー/VERA、RISE、CfCAの研究紹介3D映像/質問コーナー/Z星研究調査隊成果発表/木村榮記念館特別展/特別内覧ツアー(木村榮記念館、AOC、関連器室)

○夜の部

小太鼓演奏「妖精の輝き」/宇宙遊学館プロジェクトマッピング「銀河のながれ」他/星空観望会(各天文同好会との協働で開催)

●特別公開の歩みと地域との連携

奥州市、NPO法人イーハトーブ宇宙実践センター(奥州宇宙遊学館)と国立天文台の3者で実行委員会が組織され、いわて銀河フェスタを開催して今年で8回目を迎えます。それ以前には、国立天文台水沢地区の施設公開として開催されてきました。水沢では例年の夏祭りとして8月に「水沢ざっつあかまつり」や、「水沢花火大会」が行われています。「いわて銀河フェスタ」はこれらに加え、地元の新しい夏祭りとして根付きつつあります。奥州市が誕生してから市制10年の節目の年にあたり、また岩手国体が開催される年でもあります。



●2015年開催データ

開催日時: 8月22日(土) 10:00~21:00(国立天文台水沢地区特別公開は16:30まで)

特別講演会: 「スーパーコンピュータの威力で宇宙の暗黒面に迫る—ダークマター構造形成—」石山智明(千葉大学准教授) 14:00~15:00

★詳しくは

<http://www.miz.nao.ac.jp/>

●過去の開催データ

○2014

開催日時: 2014年8月30日(土)
 入場者数: 約1000人
 テーマ: はやぶさ2 再び小惑星へ 太陽系形成の謎に挑む!
 特別講演会: 「はやぶさ2—太陽系大航海時代の見る夢」(橘省吾 北海道大学准教授)

○2013

開催日: 2013年8月24日(土)
 入場者数: 約2000人
 テーマ: いわて銀河フェスタ2013・スパコン「アテルイ」がやって来た!—スーパーコンピュータが切り拓く天文学—
 特別講演会: 「数値シミュレーションと国立天文台」(伊藤孝士 CfCA助教) / 「コンピュータで宇宙を知ろう。~宇宙最大の爆発、超新星~」(滝脇知也 CfCA 特任助教) / 「小惑星ミッション「はやぶさ2」の新たな挑戦」(吉川真 JAXA/ISAS 准教授)

○2012

開催日: 2012年8月11日(土)
 入場者数: 約1000人
 テーマ: いわて銀河フェスタ2012・未来の科学は「いわて」から
 特別講演会: 「ブラックホールってなに?」(大西浩次 長野高専教授) / 「スーパーコンピュータで探る地球と月の起源」(小久保英一郎 CfCA 教授)

○2011

開催日: 2011年8月20日(土)
 入場者数: 約2000人
 テーマ: いわて銀河フェスタ2011・大震災を超えて 夢を未来へ、星へ
 特別講演会: 「宇宙技術でとらえた東日本大震災に伴う変動」(日置幸介 北海道大学教授)



Z項とは何か? 木村榮記念館のツアーが毎年人気です。水沢では建物や団体名の名称にZの文字が多く刻まれています。



水沢ざっつあかまつり。



水沢の花火大会。

水沢VLBI観測所 **VERA 石垣島観測局・石垣島天文台** 2015年特別公開

日本最大! 「～伝統的七夕企画～南の島の星まつり」

開催日 8月15日(土)～8月23日(日)

●今年の「南の島の星まつり」

今年は、戦後70周年の節目の年でもあり、南の島の星まつりもこれをテーマに開催します。恒例の全島ライトダウンは、終戦記念日の8月15日(土)とし、平和の中で眺める星空のすばらしさを満喫します。今年はIDA(NPO国際ダークスカイ協会)東京も、ライトダウンの呼びかけに参加して頂きます。

夕涼みライブでは、恒例の夏川りみさん、スクープオンサムバディのみなさんが出演、そして司会は、宙ガールとして活躍中の篠原ともえさんです。翌16日は毎年記念講演会ですが、今年は篠原ともえさんと林正彦国立天文台長に私(宮地)も加わり、「宙ガールと石垣島の星空の魅力語る」トークショーを東京FMの番組「東京まちかど天文台」の収録も兼ねて開催します。また、昨年からはじめた俵万智さんが選者を勤める「美ら星の歌」の募集を行います。今年のテーマは、「平和と星空」で、星まつりウィークの最終日8月23日までが、募集期間になります。さらに今年の特別企画として、山梨県立科学館が制作した「戦場に輝くベガ一約束の星を見上げて」を石垣島天文台で、星まつりウィークの期間中に上映します。

毎年、新しいイベントが加わる「南の島の星まつり」。天文ファン、沖縄ファンのみならず、たくさんの方のみなさんの参加をお待ちしています。

★おもなイベント

- ・全島ライトダウン&夕涼みライブ&星空観望会(8月15日:南ぬ浜町緑地公園)
- ・星まつり講演会(トークショー)(8月16日:市内南の美ら花ホテルミヤヒラ)
- VERA石垣島観測局特別公開(8月16日:市内嵩田地区VERA観測局)
- ・星空観望会(8月16日～23日:石垣島天文台)
- ・4D2U(4次元デジタル宇宙)映像鑑賞会(8月15日～23日:石垣島天文台)
- ・5.5mドームのプラネタリウム上映(8月20日～23日:石垣港離島ターミナル)
- ・俵万智さん選者の「美ら星の歌」募集(6月5日から、星まつり最終日の8月23日まで募集)
- ・「戦場に輝くベガ一約束の星を見上げて」観賞会(8月15日～23日:石垣島天文台)

Navigator 宮地竹史(水沢VLBI観測所/石垣島天文台)



ライトダウン&夕涼みライブの会場は大盛り上がり(2014年)。



天の川と石垣島天文台。

●2015年開催データ

開催日時: 8月15日(土)～8月23日(日) 星まつりウィーク(石垣島天文台ほか) / 8月16日(日) 10:00～17:00 VERA石垣島観測局特別公開

★詳しくは
<http://www.southern-star.jp/>

水沢VLBI観測所 **入来観測局(鹿児島)** 2015年特別公開

2年分楽しい「八重山高原星物語」

開催日時 8月8日(土) 12:00～20:00

●今年の「八重山高原星物語」

八重山高原星物語2015は鹿児島県のVERA入来局で開催されます。街からちょっと離れて身近な自然を体感しながら宇宙をまなべるイベントです。牧場となり合った天文台施設には光と電波の望遠鏡があり、赤外線観測やVLBI観測設備の一般公開が行われます。

これまで長い時間をかけて地元入来町の方々と作り上げてきたイベントです。入来町は川沿いに武家屋敷集落があり、長い歴史をもつ山あいの町でもあります。昨年は残念ながら台風で中止となりましたので今年は2年ぶりの開催です。九州新幹線の開通でアクセスもずいぶん良くなりました。国立天文台ニュースの読者のみなさま、ぜひ夏の鹿児島、VERA入来局にも足をお運びください。

★おもなイベント

- ・見てさわって学ぶ科学実験(県内の大学生ボランティアによる実演など)
- ・VERA入来局施設公開(アンテナやデータ処理設備の見学)
- ・鹿児島大学1メートル光赤外線望遠鏡の施設公開
- ・ステージショー(17:00から開始)
- ・薩摩川内市の特産品販売と食事コーナー
- ・鹿児島県天文協会による星空観望会
- ・ミニ講演会(科学、歴史、町づくりを分かりやすくお話しします)
- ・国立天文台4D2Uシアター(立体視デジタルシアターで宇宙の広さを体感)

Navigator 中川亜紀治(鹿児島大学)



隣接する牧場の馬や牛たちもお待ちしております。



●2015年開催データ

開催日時: 8月8日(土) 12:00～20:00
開催場所: 鹿児島県薩摩川内市入来町4018-3 鹿児島大学入来牧場併設の天文台施設

★詳しくは
<http://milkyway.sci.kagoshima-u.ac.jp/~yaeyama/2015/>
連絡先: 八重山高原星物語実行委員会 (0996-44-3111)

野辺山宇宙電波観測所 2015年特別公開

宇宙に生命の痕跡を求めて

開催日時 8月22日(土) 9:30~16:00 (入場は15:30まで)

●2014年特別公開のようす

予報により心配された雨も開始までには止み、昨年の特別公開は雨上がりの天気のもとでの開催となりました。日本の電波天文を世界レベルに押し上げた『野辺山』にスポットをあて「電波天文、野辺山から世界へ！」をテーマにして、特別講演会、恒例の人気企画とともに新しい企画も登場して行われました。長野県観光PRキャラクター「アルクマ」も野辺山に初登場となり、2698人の参加した熱気のある特別公開となりました。



長野県観光PRキャラクター「アルクマ」が野辺山に登場。「アルクマ」ってアルマに関係があるのですかという質問も。

●今年の見どころ・聴きどころ

今年の特別公開は「宇宙に生命の痕跡を求めて」というテーマにて開催します。近年のアストロバイオロジーの進展は目を見張るものがあります。昨年秋の天文学会での記者会見では45m電波望遠鏡での観測成果が発表されました。この観測成果を含め、最近の進展をお話頂く特別講演会を行います。また、恒例となったスタンプラリー、質問コーナー、45m鏡パネルヘタッチ、アンテナ折り紙教室、太陽電波の電気工作、アルマのジオラマやミニ講演会などのほか、5月に野辺山で実施した「アーティストインレジデンス」の様子についても報告します。さらに、国立天文台野辺山のウェブキャラクター「のべやま先生」も初登場です。

暑い時期ですが、涼しい野辺山高原でみなさまのご来場をお待ちしています。



中島氏の特別講演会の様子。太陽電波観測所の歴史を話って頂きました。



45m電波望遠鏡の鏡面にタッチ。昨年は内部ものぞいてみました。

●特別公開の歩みと地域との連携

★特別公開の歩み

野辺山地区の特別公開は、宇宙電波観測所開所の翌年である1983年に始まり、今年で33回目です。当初は、農閑期となる11月に行っていたようですが、1988年より秋分の日、2001年より8月の開催となっています。「科学の成果を社会に知らせるのは、科学者の責務」(野辺山宇宙電波観測所30周年記念誌より)の精神に基づいた特別公開を開所当初から実施し、国立天文台では最も歴史のある特別公開のひとつといえるでしょう。

★野辺山観測所のある街

野辺山観測所は、長野県南東部にある八ヶ岳の東麓にあって山梨県清里に隣接する南牧村野辺山高原にあります。標高1350mと高原の特徴を生かした高原野菜の栽培が盛んなどころです。今年は小海線80周年を記念したイベントが沿線各地で行われており、JR最高地点やJR最標高駅「野辺山駅」などには多くの観光客が訪れることになりそうです。

★地域との連携

特別公開においては、毎年、南牧村所有の駐車場の提供とともに地元の商工会の方々が飲食店の出店をして頂いています。隣の南牧村施設「ベジタボウルウィズ」とともに周辺道路での標識掲示などにも協力頂いています。長野県からも後援を頂き、地域からのバックアップにより特別公開は開催されています。

Navigator 衣笠健三(野辺山宇宙電波観測所)



●2015年開催データ

開催日時：8月22日(土) 9:30~16:00
(入場は15:30まで)

テーマ：宇宙に生命の痕跡を求めて
特別講演会：「宇宙に生命を探す」観山正見(前国立天文台長・現広島大学学長室 特任教授) / 「宇宙の生体物質2～やはり、宇宙と生命は繋がっている～」大石雅寿(国立天文台 天文データセンター長)

★詳しくは
http://www.nro.nao.ac.jp/visit/open2015/open2015_top.html

●過去の開催データ

<p>○2014</p> <p>開催日：2014年8月23日(土) 9:30~16:00 入場者数：2698人 テーマ：電波天文、野辺山から世界へ！ 特別講演会(インターネット中継も実施)：「野辺山から世界へ：太陽電波45年」中島弘 / 「電波で見る宇宙：野辺山、そして南米のアルマ望遠鏡の成果」立松健一</p>
<p>○2013</p> <p>開催日：2013年8月24日(土) 9:30~16:00 入場者数：2735人 テーマ：つなげよう 宇宙・太陽・そして生命 特別講演会：「電波観測から見えてきた太陽活動の変化—長期間観測から見る太陽のいま—」柴崎清登 / 「宇宙の生体物質—生命の起源を求めて—」大石雅寿(「アテライ」中継)</p>
<p>○2012</p> <p>開催日：2012年8月25日(土) 9:30~16:00 入場者数：3308人 テーマ：宇宙電波観測所30周年 電波ヘリオグラフィ20周年 特別講演会：「巨大電波望遠鏡アルマで挑む 暗黒宇宙の謎」川邊良平</p>
<p>○2011</p> <p>開催日：2011年8月20日(土) 9:30~16:00 入場者数：2506人 テーマ：夏ののべやま天文台へ探検にでかけよう！ 特別講演会：「『はやぶさ』とALMAでさぐる太陽系のはじまり」阪本成一 特別ライブ：「星空の詩2011 in Nobeyama—星の歌に祈りを乗せて—」清田愛未・牛山俊男</p>

今回のゲストは、ひので科学プロジェクトの井上直子さんです。広報業務にも携わる井上さんが「改めて目が開かれる思い」に至った一冊をご紹介します。



絵本のほんだな

12さつ目 『モグラくんがみたおひさま』



国立天文台三鷹の構内には、三鷹市星と森と絵本の家があります。このコーナーでは、絵本の家の本棚から、さまざまな絵本を紹介していきます。

ご案内 野口さゆみ

『モグラくんがみた おひさま』
文/ジョン・ウイリス
絵/サラ・フォックス・デイビス
訳/三原泉
B.L出版
ISBN 978-4-7764-0494-1
発行 2012/4/1



まごころの目、科学の目

私は、2014年4月からひので科学プロジェクトの広報を担当しています。絵本の家は、この記事を書くために野口さんに連れて行っていただいたのが、初めてでした。私の足が向かったのは、やはり、おひさまのコーナー。そして、おひさまだけで何十冊もある中から、ぜひこの絵本を紹介したいと思ったのが『モグラくんがみたおひさま』です。

ハタネズミが日の出を見に行くところモグラくんと出会い、一緒に見に行こうと誘います。モグラは地中で暮らしているため、目が退化して、ほとんど見えないのだそうです。ウサギ、スズメ、リスも日の出を見に来ており、動物達は、湖に広がる日の光を目玉焼きが焼けるところに例えたり、きらきら光るおひさまを金色のボタンに例えたりして、モグラくんに教えます。そうして、モグラくんは、日の出がどんなふうに見えるのか、分かるのです。太陽観測衛星 SOLAR-B の名前となった「日の出」——私も、幼い頃に見た初日の出を思い出し、モグラくんと一緒に、動物達から改めて日の出の美しさ、すばらしさを教えてもらった気がしました。

実は、次に私が考えたことは、モグラくんは分解能の悪い目の代わりに、どんなセンサを使って太陽を感じたのか、ということでした。インターネットで調べてみると、モグラは嗅覚、聴覚が発達していて、また、体毛の触覚で様々な情報を得ていることが分かりました。でも、そうしているうちに、私は、2つのことに気づきました。1つ目は、おひさまは、モグラくん一人では、決して見えなかったということ。これは、先端研究の場合も同じです。今や、日本一国の科学技術では難しく、国際協力により初めて太陽の素顔が見えてくるのです。もう1つは、科学技術で見える太陽と、まごころの目で見えるおひさまがあることです。まごころの目に見えるおひさまは、モグラくんだけでなく、私達みんなにあると思うのです。例えば、幼い頃に私が見た初日の出のように。そして、その、まごころの目で見えるおひさまが、科学技術の目で太陽をもっと知りたいと思う好奇心の根底にあるのだと思うのです。天文情報センター普及室の縣さんのおっしゃる「天文学はみんなの科学」という言葉を思い出しました。そして、今、私は、子どもから大人までの多くの方達にまごころの目を開いてほしいという思いで広報活動に携わっています。

一方で、まごころの目が開いたからといって、科学の目が開くとは限らないことも事実です。一人でも多くの人のまごころの目

を科学の目へ発展させられることを目指して、私は広報活動に取り組んでいます。絵本の家は、私に科学広報の意義について、改めて深く考えさせてくれました。そして、国立天文台で先端研究に直接的、間接的に携わるすべての人に、「どうして宇宙を研究するのか」の基本に立ち返らせてくれる、すてきな空間だと思いますので、ぜひ、足を運んでみてください。



モグラくんは、みんなの助けをかりて、日の出を見ることができました。

案内人のしおり

「仕事柄サイエンス的なことが気になるんです。それもやっぱり太陽ですね」と言いながら、迷うことなく“おひさまいっばい”の棚に向かった井上さん、「うわー、太陽の本がこんなにあるとは知らなかった、これは大変、決まらない」と、次々に絵本を手に取り最後に絞り込んだ1冊は、初めてひのでを見に行くモグラくんの物語でした。

井上さんは、幼い頃に初めて日の出を見た体験を重ねて絵本を楽しまれたとのことでしたので、そのときの様子をうかがってみたところ「小学生の頃、母とともに家のベランダから初日の出を見ました。うす暗かったのがだんだん明るくなって、太陽が現れる瞬間にピカーッって…」と、遠い目をして語って下さいました。幼い日の井上さんには、きっと言葉にならないこころの動き、感動があったことでしょう。そして、その感動こそが井上さんの言う「こころの目で見ると」ということなのかもしれません。

井上さんはこの取材を通して、科学の探求への原動力にはこころの目が大切な鍵をにぎっていることを再確認されたとのことでした。きっとこれからもひのでの広報活動を通して、ひとりでも多くの人のこころを動かすべく奮闘されることでしょう。

大きな声でハキハキとお話しされながら、時折「かわいい」と小さくつぶやいては絵本の中のモグラくんをやさしくなでる様子がたいへん印象的な井上さんでした。

あ〜、モグラくん!!



お話を伺った後、お日様の光あふれる庭に出てみると、突然地中から何やら呼び声が…「え?」



ゲスト募集中!

「絵本のほんだな」では、ゲスト参加者を募集しています。絵本が好きな台内スタッフのみならず、ふるってご参加ください。お問い合わせは、天文情報センター・野口さゆみまで。

● 機関の長

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年4月1日	林 正彦	任命、併任	自然科学研究機構 理事 (任期:平成28年3月31日まで) (併) 国立天文台長 (任期:平成28年3月31日まで)	(任命) 国立天文台長 (任期:平成28年3月31日まで)

● 研究教育職員

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年3月31日	湯谷正美	勤務地変更	光赤外研究部 (ハワイ観測所 (三鷹)) 主任研究技師	光赤外研究部 (ハワイ観測所) 主任研究技師
平成27年3月31日	家 正則	定年退職		光赤外研究部 (TMT推進室) 教授
平成27年3月31日	柴崎清登	定年退職		太陽天体プラズマ研究部 (野辺山太陽電波観測所) 教授
平成27年3月31日	佐々木敏由紀	定年退職		光赤外研究部 准教授
平成27年3月31日	小矢野 久	定年退職		光赤外研究部 (岡山天体物理観測所) 主任研究技師
平成27年3月31日	湯谷正美	定年退職		光赤外研究部 (ハワイ観測所 (三鷹)) 主任研究技師
平成27年3月31日	福島英雄	退職 (早期退職)		天文情報センター 研究技師
平成27年3月31日	大島紀夫	任期満了退職		天文情報センター 研究技師
平成27年3月31日	工藤哲洋	退職 (転出)	(長崎大学教育学部 准教授)	理論研究部 助教
平成27年3月31日	高野秀路	退職	(日本大学工学部 准教授)	電波研究部 (野辺山宇宙電波観測所) 助教
平成27年3月31日	萩原喜昭	退職	(東洋大学文学部 准教授)	電波研究部 (水沢VLBI観測所) 助教
平成27年4月1日	杉本正宏	昇任	光赤外研究部 (TMT推進室) 准教授	電波研究部 (チリ観測所) 助教
平成27年4月1日	小山佑世	新規採用	光赤外研究部 (ハワイ観測所 (三鷹)) 助教	
平成27年4月1日	下条圭美	配置換、勤務免命	電波研究部 (チリ観測所 (三鷹)) 助教	太陽天体プラズマ研究部 (野辺山太陽電波観測所) 助教
平成27年4月1日	川島 進	勤務免命、勤務地変更	電波研究部 (野辺山宇宙電波観測所) 主任研究技師	電波研究部 (チリ観測所 (三鷹)) 主任研究技師
平成27年4月1日	櫻井 隆	任期更新	太陽天体プラズマ研究部 (太陽観測所) 教授 (任期:平成28年3月31日まで)	太陽天体プラズマ研究部 (太陽観測所) 教授 (任期:平成27年3月31日まで)
平成27年4月1日	阿久津智忠	任期更新	光赤外研究部 (重力波プロジェクト推進室) 助教 (任期なし)	光赤外研究部 (重力波プロジェクト推進室) 助教 (任期:平成27年3月31日まで)
平成27年4月1日	大石奈緒子	出向終了・復帰勤務地変更	光赤外研究部 (重力波プロジェクト推進室) 助教 勤務地:神岡	光赤外研究部 (重力波プロジェクト推進室) 助教 (出向先:東京大学宇宙線研究所)
平成27年4月1日	関口和寛	併任解除、勤務命	台長特別補佐 (任期:平成29年3月31日まで)	国際連携室長
平成27年4月1日	高見英樹	事務取扱免		水沢VLBI観測所長事務取扱
平成27年4月1日	花岡庸一郎	併任解除		野辺山太陽電波観測所長
平成27年4月1日	櫻井 隆	併任	太陽天体プラズマ研究部主任 (期間:平成28年3月31日まで)	太陽天体プラズマ研究部主任 (期間:平成27年3月31日まで)
平成27年4月1日	本間希樹	併任	水沢VLBI観測所長 (期間:平成30年3月31日まで)	
平成27年4月1日	周藤浩士	配置換 (機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 アストロバイオロジー装置開発室	光赤外研究部 (太陽系外惑星探査プロジェクト室) 助教
平成27年4月1日	小谷隆行	配置換 (機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 系外惑星探査プロジェクト室	光赤外研究部 (太陽系外惑星探査プロジェクト室) 助教
平成27年4月1日	周藤浩士	併任 (機構内)	太陽系外惑星探査プロジェクト室 助教	(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 アストロバイオロジー装置開発室)
平成27年4月1日	小谷隆行	併任 (機構内)	太陽系外惑星探査プロジェクト室 助教	(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 系外惑星探査プロジェクト室)
平成27年4月1日	西川 淳	併任 (機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 アストロバイオロジー装置開発室	(光赤外研究部 (太陽系外惑星探査プロジェクト室) 助教)
平成27年4月1日	中島 紀	併任 (機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 助教 系外惑星探査プロジェクト室	(光赤外研究部 (太陽系外惑星探査プロジェクト室) 助教)
平成27年4月1日	田村元秀	併任	太陽系外惑星探査プロジェクト室 教授 (期間:平成28年3月31日まで)	(東京大学大学院理学系研究科 教授)
平成27年4月1日	安東正樹	併任	重力波プロジェクト推進室 准教授 (期間:平成28年3月31日まで)	(東京大学大学院理学系研究科 准教授)
平成27年4月1日	田村元秀	併任 (部局長)	太陽系外惑星探査プロジェクト室長 (期間:平成28年3月31日まで)	(太陽系外惑星探査プロジェクト室 教授)
平成27年4月1日	一本 潔	併任	SOLAR-C準備室 教授	(京都大学大学院理学系研究科 教授)
平成27年5月1日	岩下 浩幸	配置換、勤務地変更、勤務免命	光赤外研究部 (ハワイ観測所) 主任研究技師	電波研究部 (野辺山宇宙電波観測所) 主任研究技師
平成27年5月1日	坂東 貴政	配置換、勤務地変更、勤務免命	光赤外研究部 (ハワイ観測所) 研究技師	太陽天体プラズマ研究部 (SOLAR-C準備室) 研究技師
平成27年5月15日	朝木 義晴	採用 (転入)	電波研究部 (チリ観測所 (三鷹)) 准教授	(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 助教)
平成27年5月26日	朝木 義晴	勤務地変更	電波研究部 (チリ観測所) 准教授	電波研究部 (チリ観測所 (三鷹)) 准教授

● 事務職員

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年3月31日	日向忠幸	定年退職		事務部経理課長
平成27年3月31日	大野和夫	定年退職		事務部施設課長
平成27年3月31日	菊地仁一	退職 (転出)	(東京大学薬学部専門員)	事務部総務課専門職員 (人件費担当)、(併)給与係長
平成27年3月31日	堀 真弓	退職 (転出)	(東京大学教養学部図書課図書係)	天文情報センター事務室 図書係長
平成27年3月31日	三浦 進	退職 (転出)	(東京学芸大学財務施設部経理課契約総括係長)	事務部財務課 総務係長、(併)専門職員 (監査担当)
平成27年3月31日	大久保和彦	退職 (転出)	(総合研究大学院大学国際・社会連携課国際交流係)	事務部総務課 (研究支援係)
平成27年4月1日	渡部雪華	採用 (転入)、併任	事務部総務課給与係長、(併)専門職員 (人件費担当)	(東京学芸大学財務施設部財務課財務企画第一係 主任)
平成27年4月1日	等々力達也	採用 (転入)	天文情報センター事務室 図書係長	(東京大学社会科学研究所図書チーム係長)
平成27年4月1日	宮田雄介	採用 (転入)	事務部経理課 (経理係)	(総合研究大学院大学学務課学生厚生係)
平成27年4月1日	川島良太	昇任	事務部施設課総務係 主任	事務部総務課 (職員係)
平成27年4月1日	吉川裕子	配置換	事務部総務課 専門職員 (大学院担当)	国際連携室事務室 国際学術係長
平成27年4月1日	山本真一	配置換、併任	事務部財務課 総務係長、(併)専門職員 (監査担当)	事務部財務課 専門職員 (競争的資金等担当)
平成27年4月1日	千葉聡子	配置換	事務部財務課 主任 (競争的資金等担当)	事務部経理課経理係 主任
平成27年4月1日	高田美由紀	配置換	国際連携室事務室 (国際学術係)	事務部総務課 (総務係)
平成27年4月1日	大内香織	育児休業終了職務復帰	事務部総務課 (職員係)	
平成27年4月1日	持丸 栗	新規採用	事務部総務課 (総務係)	
平成27年4月1日	斎藤将大	新規採用	事務部総務課 (職員係)	
平成27年4月1日	佐々木 強	勤務命	事務部経理課長事務取扱	(事務部長)
平成27年4月1日	渡辺松夫	採用 (転入)	事務部施設課長	(国立科学博物館経営管理部施設整備主幹)
平成27年4月1日	山田智宏	配置換 (機構内)	自然科学研究機構岡崎統合事務センター財務部財務課専門職員	施設課総務係長
平成27年5月1日	後藤 美千瑠	育児休業終了職務復帰	事務部総務課 (総務係)	

● 技術職員

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年4月1日	篠原徳之	配置換、勤務免除	電波研究部(野辺山宇宙電波観測所) 技師	太陽天体プラズマ研究部(野辺山太陽電波観測所) 技師
平成27年4月1日	篠田一也	昇任	太陽天体プラズマ研究部(太陽観測所) 技師	太陽天体プラズマ研究部(太陽観測所) 主任技術員
平成27年4月1日	半田一幸	昇任	電波研究部(野辺山宇宙電波観測所) 技師	電波研究部(野辺山宇宙電波観測所) 主任技術員
平成27年4月1日	宮澤千栄子	昇任	電波研究部(野辺山宇宙電波観測所) 技師	電波研究部(野辺山宇宙電波観測所) 主任技術員

● 年俸制職員

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年3月31日	永山 匠	任期満了退職	(水沢VLBI観測所 特任専門員)	水沢VLBI観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年3月31日	山口隆弘	任期満了退職	(研究力強化戦略室(国際連携室事務室) URA職員 特任専門員)	チリ観測所 特任専門員チリ観測所事務部事務長、(兼)会計係長
平成27年3月31日	神鳥 亮	任期満了退職		太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年3月31日	川口俊宏	辞職		天文データセンター 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年3月31日	三浦理絵	辞職	(チリ観測所(三鷹) 特任助教)	チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年3月31日	HERRERA CONTRERAS CINTHYA NATALIA	辞職	(チリ観測所(三鷹) 特任助教)	チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年4月1日	MULLAR ERIK MICHAEL	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任准教授	
平成27年4月1日	深川美里	採用	チリ観測所(三鷹) 特任准教授	(大阪大学大学院理学研究科 助教)
平成27年4月1日	三浦理絵	採用	チリ観測所(三鷹) 特任助教	(チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員))
平成27年4月1日	HERRERA CONTRERAS CINTHYA NATALIA	採用	チリ観測所(三鷹) 特任助教	(チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員))
平成27年4月1日	廿日出文洋	変更	チリ観測所(三鷹) 特任助教(国立天文台フェロー)	チリ観測所(三鷹) 特任助教
平成27年4月1日	利川 潤	新規採用	ハワイ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	市川幸平	新規採用	ハワイ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	福井暁彦	新規採用	岡山天体物理観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	橋本哲也	新規採用	TMT推進室 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	大辻賢一	新規採用	太陽観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	渡邊恭子	新規採用	SOLAR-C準備室 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	江草美実	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	諸隈佳菜	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	松本尚子	新規採用	水沢VLBI観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	坂井伸行	新規採用	水沢VLBI観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	元木業人	新規採用	水沢VLBI観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	押上祥子	新規採用	RISE月惑星探査検討室 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	金子紘之	新規採用	野辺山宇宙電波観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	宮本祐介	新規採用	野辺山宇宙電波観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	遠越秀吾	新規採用	理論研究部 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	朝比奈雄太	新規採用	天文シミュレーションプロジェクト 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	唐津謙一	新規採用	先端技術センター 特任研究員(プロジェクト研究員)	
平成27年4月1日	奥村裕二	新規採用	チリ観測所 特任専門員 チリ観測所事務部事務長、(兼)会計係長	
平成27年4月1日	新岡康昭	新規採用	先端技術センター 特任専門員	
平成27年4月1日	江崎翔平	新規採用	先端技術センター 特任専門員	
平成27年4月1日	唐津実希	新規採用	先端技術センター 特任専門員	
平成27年4月1日	上水と典	新規採用	先端技術センター 特任専門員	
平成27年4月1日	古谷明夫	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	小沼三佳	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	額谷宙彦	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	中村光志	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	大田原一成	新規採用	チリ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	金口政弘	新規採用	水沢VLBI観測所 特任専門員	
平成27年4月1日	小山友明	新規採用	水沢VLBI観測所 特任専門員	
平成27年4月1日	永山 匠	採用	水沢VLBI観測所 特任専門員	(水沢VLBI観測所 特任研究員(プロジェクト研究員))
平成27年4月1日	百瀬莉恵子	新規採用	ハワイ観測所(三鷹) 特任専門員	
平成27年4月1日	成田憲保	配置換(機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教 系外惑星探査プロジェクト室	太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任助教(国立天文台フェロー)
平成27年4月1日	成田憲保	併任(機構内)	太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任助教(国立天文台フェロー)	(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教 系外惑星探査プロジェクト室)
平成27年4月1日	堀 安範	併任(機構内)	太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任助教	(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教 系外惑星探査プロジェクト室)
平成27年4月1日	橋本 淳	併任(機構内)	太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任助教	(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター 特任助教 アストロバイオロジー装置開発室)
平成27年4月1日	大宮正士	併任(機構内)	自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター アストロバイオロジー装置開発室 研究員	(太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任研究員)
平成27年4月6日	PIRES CANAS LINAISABEL	新規採用	天文情報センター 特任専門員	
平成27年4月10日	HENSLEGER GERHARD MAX FRANZ	採用(新規)	JASMINE検討室 特任教授(客員教授) (期間:平成27年5月20日まで)	
平成27年5月1日	竹腰達哉	配置換	チリ観測所(三鷹) 特任研究員(プロジェクト研究員)	野辺山宇宙電波観測所 特任研究員(プロジェクト研究員)
平成27年5月12日	KOZAK PAVLO	採用	天文情報センター 特任准教授(客員准教授) (期間:平成27年7月10日まで)	

● URA 職員

発令年月日	氏名	異動種目	異動後の所属・職名等	異動前の所属・職名等
平成27年4月1日	山口隆弘	採用	研究力強化戦略室(国際連携室事務室) 特任専門員	(チリ観測所 特任専門員)
平成27年4月1日	山口隆弘	併任	国際連携室長(期間:平成29年3月31日まで)	チリ観測所 特任専門員チリ観測所事務部事務長、(兼) 会計係長

赤羽賢治先生を偲んで

海部宜男（国立天文台名誉教授）

赤羽賢司先生が、4月22日朝、88歳で亡くなられた。最近足が不自由になり車椅子ではあったが、前夜までお元気で、好きなビールをおいしそうに飲んでおられたとのこと。大往生とはこのことを言うのだろう。赤羽さん（生前通り、こう呼ばせていただく）は、2010年に亡くなった森本雅樹さんとともに、日本の宇宙電波を創始したお一人である。日本の天文学の一時代が終わったという感慨を抱くのは、私だけではないだろう。

赤羽さんは1987年、野辺山宇宙電波観測所長を最後に36年間務めた東京大学東京天文台を退官され、その後富山大学教授、松商学園短期大学学長を歴任、紫綬褒章をはじめ多くの賞を受けられた。赤羽さんの経歴と業績、さまざまな思い出や宇宙電波開拓の足跡については、『天文月報』9月号、赤羽先生追悼特集（著者は古在由秀、長根潔、稲谷順司、長谷川哲夫、高木光司郎の各氏と私）で紹介されるので、ご覧いただきたい。

赤羽さんは、東大工学部のご出身である。1951年の卒業と同時に、故・畑中武夫教授が電波天文学の立ち上げを進めていた東京天文台に、電波望遠鏡づくりの期待を担って助手として赴任された。赤羽さんはその期待に応え、一貫して電波望遠鏡、特に高精度パラボラづくりと、関連する実験に専念された。入台当初は太陽電波の装置と観測、そしてコーネル大学・ミシガン大学に留学。1960年代に入ると日本にも宇宙電波の望遠鏡という気運が高まり、森本さんと一緒に、宇宙電波立ち上げのグループを作られた。ところがその矢先の1963年、頼みのリーダー・畑中教授が急逝されたのである。赤羽さん・森本さんの小さな宇宙電波グループは難しい局面に立たされたが、悪戦苦闘の末、波長が短く技術的にも未開拓だった「ミ

リ波」に狙いを定めた。三鷹に口径6mのミリ波望遠鏡を建設し、私も加わって1972年には星間分子の分光観測を開始。結果として、野辺山の建設、そしてアルマへと続く大きな道が開けたのである。このあたりは『天文月報』の記事に詳しく書いたので、ぜひお読みいただきたい。

赤羽さんを知るすべての人は、異口同音に言うだろう。赤羽さんは必要な実験や大事な事項を把握し黙ってコツコツと進める實際家、そしてまことに実直な方であったと。そしてダイナミックな森本雅樹さんも知る方は、このお二人のほとんど正反対ともいべき対照的組み合わせについて、さまざまに感想をお持ちであろう。私は、ミリ波天文学・星間分子分光の創成期をこのお二人と共に過ごさせていただいた一人である。お二人と苦楽を共にした長根さん、宮澤さん、宮地さんなどの技術陣や大学院の仲間と過ごした「三鷹ミリ波グループ」の日々、そして「野辺山」でのダイナミックな仕事や開発は、実に楽しいものだった。

思い出は尽きないが、紙数が尽きる。ここでは人にあまり話したことがない赤羽さんらしいエピソードを一つだけ、書き留めておきたい。私事にわたるがお許しいただきたい。

私は大学院の博士課程1年、24歳の時に結婚した。赤羽さんご夫妻に媒酌をお願いすることになり、婚約相手（しげみ）と一緒に、中野のご自宅へ伺った時のことだ。赤羽ご夫妻を前に、私がシャッショコばってお願いの挨拶をすると、赤羽先生、直ちに「研究者は、若いうちに結婚しないほうがいいよ」と、真剣な顔で言われたものである。媒酌のご相談に伺った二人に向かって。驚いたので、そのとき英子奥様がどんな顔しておられたか覚えていない。なんとかお願いを済ませたの帰り道、しげみが開口一番、「びっくりしたわね〜」。私の前途を心配されての真面目そのもののご意見だったことは、よくわかる。まことに率直な赤羽さんならではのこの話、今はしげみと時おり思い出しては、「びっくりしたけど、ありがたいことだったね」と、話すのである。

赤羽さん、ほかにもいろいろご心配をおかけしましたが、楽しく有意義な時期を一緒に過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。ゆっくりとお休みください。



赤羽賢司先生。



赤羽さんが作った最初の電波望遠鏡、2m太陽電波用パラボラ（1953年頃）。



野辺山で開かれた紫綬褒章のお祝いの会にて（1989年）。



野辺山45m望遠鏡の鏡面に顔を出す赤羽さん。



東京天文台の仲間と。後ろが赤羽さん、右端は古在由秀元台長。

今年もやります！ ペルセウス座流星群キャンペーン

8月は流星を見る絶好のチャンス。このころ、ペルセウス座流星群が多く流星を見せてくれるからです。

国立天文台では、ペルセウス座流星群が活動する時期に合わせて「夏の夜、流れ星を数えよう 2015」キャンペーンをおこないます。ペルセウス座流星群の活動が特に活発になる、8月12日の夜から15日の朝までの3晩の間に夜空を眺めて、流星がいくつ見えたかをインターネットで報告してください。

今年は、月明かりの影響を受けず、とてもよい条件でペルセウス座流星群を観望することができます。

キャンペーン（観察）期間：2015年8月12日夜～15日朝

報告受付期間：2015年8月12日正午～19日正午



★くわしくは

<http://naojcamp.nao.ac.jp/phenomena/20150812-perseids/index.html>
をご覧ください。

編集後記

この時期、子どもが保育園から保護者も書くようにという短冊を持ち帰る。提出後、他の人が何を書いたのかと七夕飾りを見ていたら、ある短冊に「お父さんが早く昇進しますように」とあり、苦笑…。(l)

面白いと思っていたテレビ番組の企画が「理系男子にしか受けない」と著名人にバツサリ切られているのを見て、広く伝えるのは難しいかと再認識。いろいろなターゲットにいるるな手でアプローチしたいものです。(h)

広島出張の帰りに江田島に寄ってきました。祖父と大祖父が若き日を過ごした海軍兵学校には二人の卒業写真が残っていました。(e)

まだ字をかけない子どものかわりに、七夕の短冊にねがいごとを書いてあげようとしたが、子どもの気持ちになるのはなかなか難しく、親の希望的な想像で書いてしまいました。(k)

今年はエルニーニョ現象が強まっているそうです。長期的には冷夏とか暖冬とかと予報されていますが、実際に日本付近の気象に影響がはじめるのはいつ頃からでしょうか。(j)

湿度が高く油断していると菌類の繁殖が進む今日この頃、なんかこれは糸を引いているのでは？ という弁当のカボチャの煮物、意を決して食べてみましたが…大丈夫でした。そうすると、なんとなく体にいい菌が入ったのでは？ なんて思ったりしてしまうのは、頭の方に菌が回っているのでしょうか？(k)

人の記憶は曖昧だ。つい先週の会議の結論が参加者によって全く違ったり…議事録は大切です。(w)

国立天文台ニュース
NAOJ NEWS

No.264 2015.07

ISSN 0915-8863

© 2015 NAOJ

(本誌記事の無断転載・放送を禁じます)

発行日 / 2015年7月1日

発行 / 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
国立天文台ニュース編集委員会

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

TEL 0422-34-3958

FAX 0422-34-3952

国立天文台ニュース編集委員会

●編集委員：渡部潤一（委員長・副会長）／小宮山裕（ハワイ観測所）／寺家孝明（水沢VLBI観測所）／勝川行雄（ひので科学プロジェクト）／平松正顕（チリ観測所）／小久保英一郎（理論研究部／天文シミュレーションプロジェクト）／伊藤哲也（先端技術センター）
●編集：天文情報センター出版室（高田裕行／岩城邦典）●デザイン：久保麻紀（天文情報センター）

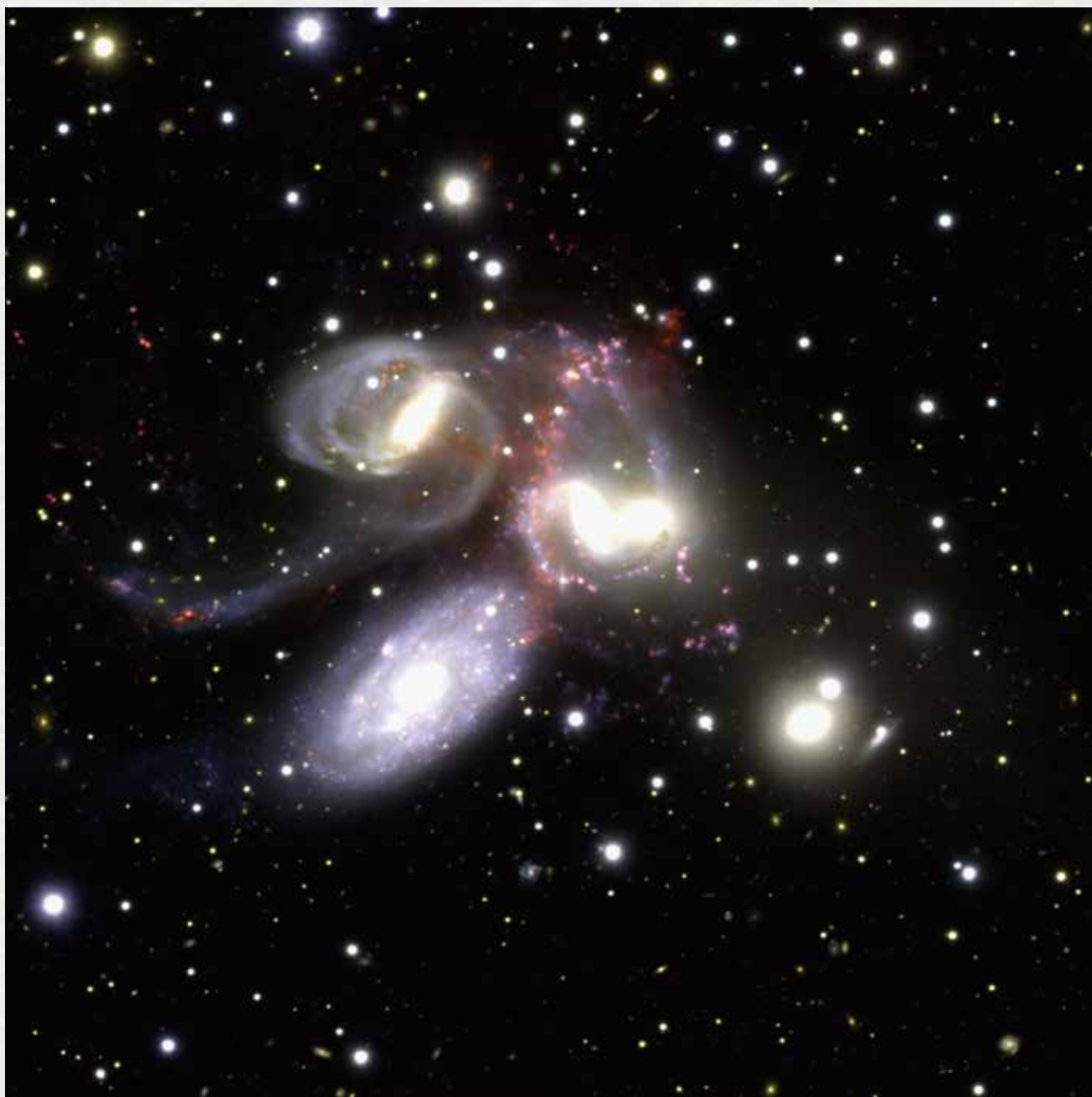
★国立天文台ニュースに関するお問い合わせは、上記の電話あるいはFAXでお願いいたします。
なお、国立天文台ニュースは、<http://www.nao.ac.jp/naoj-news/>でもご覧いただけます。

8月号の研究トピックスは「すばる望遠鏡アーカイブから854個もの「超暗黒銀河」を発見！」をお送りします。お楽しみに！

次号トピックス

ステファンの5つ子

八木雅文(光赤外研究部・ハワイ観測所)



データ

天体:ヒクソンコンパクト銀河群
92(ステファンの5つ子/ペガサス座)

撮影:2009年5月25日(R, NA671),
2009年5月26日(B)(UT)
Suprime-Camによる撮像。

●フィルター: B (0.45 μm)、R (0.65 μm)、
NA671 (0.671 μm) / カラー合成: 青(B)、
緑(R)、赤(NA671) / 露出時間: 1200秒
(B)、720秒(R)、4500秒(NA671) / 視野
は6分44秒角四方の切り出し。

上の画像は約3億光年離れた銀河群を写したものです。宇宙膨張により、水素輝線を見るのに最善のフィルターは僅かに長波長寄りになり、5月号のすばる写真館で使われていたフィルターとは異なっています。この銀河群はステファンの5つ子と呼ばれますが、左下の1つは距離が近く、水素輝線はこのフィルターの組み合わせでは見えません。一方他の銀河は同じ距離にあり、今回のフィルターと色の割り当てでは水素輝線は赤く印刷されます。中央の2つと左上の銀河の間にごちゃごちゃと赤く見える構造は、銀河から剥がされたガスの中での活発な星生成によるものだと考えられています。この目立つ構造以外にも、銀河の腕の中や伸びた尾の中、またそこから少し離れた場所などで星が生まれているのが赤い色で見えています。

